

青森支部

愛マスクの寄贈について

第三十回 日本善行会 芸能チャリティが昨年の四月七日、リンクステーションホール青森の大ホールにおいて開催されました。

第三十回の節目にあたり、日本善行会から勝野堅介会長、相澤克也副会長をお招きして、盛大に行われました。

同、感謝、感激の気持ちで一杯でした。本当にありがとうございました。芸能チャリティの売り上げの一部は、毎回青森市社会福祉協議会に寄付しています。

コロナウイルスの蔓延により、事業活動が制限される中、支部の会員は現場でコロナウイルスと戦っている人たちに、感染防止用マスク(愛マスク)を届けたいと考え、佐藤支部長をはじめ、会員Tシャツや不織布等を利用して、一針一針精魂込めて手縫いし、二千枚を作成しました。

は、第三十一回日本善行会芸能チャリティの来場者にも配布する予定です。また、令和三年度は、東北ブロック支部交流会も青森支部主催で開催されます。その時は、



コロナの終息待らわびで一針一針幸あれと願う祈る愛マスク

新型コロナウイルスが終息していることをみんなで願っています。元気に皆様と会えることを楽しみにしています。

青森支部より
愛をこめて!!

ふる里自慢

前橋支部

前橋の歴史散歩のご案内
名門・四大名家のご紹介

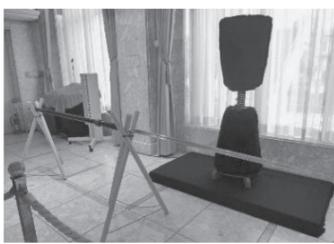
上州群馬県の県都、前橋市は雄大な赤城山、主峰は日本百名山の黒檜山一千八百二十八メートルの麓に位置しております。市内の中心部には坂東太郎の異名を持つ利根川と広瀬川が流れております。東京都内から車で約一時間の近



酒井雅楽頭家の「駕籠」

毎年秋には前橋の基礎をつくられた四大名家を顕彰する「前橋四公祭」が開催されております。本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からこの行事は中止となりました。以下、四大名

家ですが自然の豊かさや地方都市とし住人の暖かさがあります。古くは「厩橋」といい戦国時代には関東攻略の要でありました。上杉氏、武田氏、北条氏が前橋をめぐり争ってきまされた。後に徳川家康も上野国現在の群馬県を江戸の北の守りの要として重視しておりました。その徳川家康が「汝に關東の華をとらす」と言ったと伝えられている前橋には徳川幕府の名門四大名家、酒井雅楽頭家・松平大和守家・秋元越中守家・牧野駿河守家の歴代当主の墓や菩提寺が点在しております。



松平大和守家の「御手杵の椅(複製)」

家の詳細を記します。酒井雅楽頭家・初代重忠から十五代忠頼までの酒井家歴代藩主の墓所「前橋市指定重要文化財」は徳川家康の祖父松平清康が創建した、大珠山是字寺龍海院にあります。是字の「是」は、日の下の人

でやがては天下人になると予言されたとの事。松平大和守家・家康の次男秀康に始まりますが第五代藩主朝矩から第十二代直方まで前橋藩主としてお仕えをした秋元越中守家は初代長朝、二代泰朝が新田開発と天狗岩用水を開削したがその後、総社藩は廃藩となりました、牧野駿河守家・初代上野国大胡城主康成は小藩であったが常在戦場を家訓としておりました。大胡城牧野氏祭りは毎年、七月に開催されます。他にも織田信長の四天王の一人滝川一益ゆかりの長昌寺は延徳元年(一四八九)

厩橋城を築くとともに城内に創建された寺で新明宮は太田道灌が前橋城の鬼門除けとして社殿を造営したものです。なお、新陰流の剣聖上泉信綱(正式名は上泉伊勢守秀綱)は永正五年(一五〇八)上泉城に生を受け自らが創立出した新陰流を足利十三代将軍義輝に披露。最高の技を柳生宗厳(石舟斎)に相伝した。兵法柳生新陰流の流祖で唯一の【剣聖】と謳われました。毎年、新陰流祖祭りが開催されます。コロナウイルス感染症が収束した後是非とも、上州・前橋を訪れてみてください。



秋元越中守家の「赤系威大札大鎧」



牧野駿河守家の「前橋城主 酒井公の茶釜」

訃報



東逸平(本名寺門栄)氏「明るいニュース」へ善行川柳の選者元東芝レコード専属作詞家。去る九月十九日、ご逝去されました。(九十歳)ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

善行川柳

選者 東 逸平 令和二年九月九日 選評

世の中の真実を、そのまま書くのが文章ですけど、川柳はユーモラスに捉えると、世の中の真実がより一層はつきり見えてきますよ。

○大帽子 挨拶されたが大マスク

北海道 齊藤 勉

評/誠にユーモラスに捉えています。素晴らしいと思います。

○もぎたての トマトを鎌で 割る農夫

東京都 神鳥谷知己

評/「トマトを鎌で割る」素晴らしい表現です。もぎたての新鮮なトマトが目の前にあるようですね。新感覚的な素晴らしい川柳です。

○マスク故 発声口形 伝わらず

大分県 佐藤 満洋

評/マスク美男、マスク美女が街にあふれていますね。高齢者には、何を喋っているのかわかりませんよ。いずれにしても、素晴らしい作句です。

コロナ禍は、ひまに拡大していますが、善行川柳を作る方々は、ひまに減っていませんね。これが逆だといひんすけどね。

お知らせ

「選者 東逸平」の「善行川柳」の掲載は、今号をもちまして終了いたします。長い間のご愛読とご応募ありがとうございました。

東逸平氏を偲ぶ

日本善行会会長 勝野 堅介

「明るいニュース」に長年にわたって掲載されてきた「善行川柳」の選者東逸平氏の突然の訃報に驚き、深い悲しみに「善行川柳」は毎号楽しみに愛読してききました。平成二十八年には善行金章を受賞され、千葉県支部副支部長・広報委員長として千葉支部

でなりません。東逸平(本名寺門栄)氏は、昭和四十九年に身体障害者入所施設を開設して、障害者の生活支援を行うとともに障害者が働くための売店を開業し、社会参加を促し、障害者の生きがい対策を推進されました。また、韓国の大学生も受け入れて日本の福祉を経験させるなど、日韓親善にも尽くされました。平成二十八年には善行金章を受賞され、千葉県支部副支部長・広報委員長として千葉支部